

道徳教育における小集団学習のモデルケース

研究の構想

道徳の授業で困るのは、意見が数人で途絶えること。これを克服し、生徒全員参加型の授業を目指して、小集団学習の形態を工夫してみたい。

ワンポイント・アドバイス

一人ひとりに役割と責任を与えれば生徒は活動し、達成感を味わうはず。ポイントは個々に応じた役割の設定。最初は低いハードルからクリアする喜びを。

小黒板を利用した小集団学習

1つの発問についてじっくり考えさせ、生徒の考えを尊重しつつ道徳的価値に迫りたいときに行うとよい。

班の設定

班の人数

1つの班を4名と設定する。5名以上は設定しない。どうしても数が合わない場合は3名の班を作って調整する。

班員の役割

役割はその場で話し合わせて決定してよいが、この形態を繰り返す場合は「同じ役割を2度続けてやらない」「ローテーションの導入」など役割を変えていくことも必要となってくる。

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| A：清書...小黒板へ班の意見を記入する。 | } 3人班の場合は兼任させる。 |
| B：集配...チョークや小黒板、黒板消しなどの運搬 | |
| C：司会...班員の意見をまとめ、清書係に伝える。 | |
| D：発表...班を代表して小黒板の内容を発表する。 | |

授業の流れ

班づくり
役割決定
小黒板、チョークの配布
課題の提示（発問）
班による話し合い（指導者による
司会によるまとめ 机間指導）

いろいろな意見が考えられる
発問を設定しよう！

小黒板への記入
小黒板の提出、掲示（裏返しで）
席を元に戻す（全員が前を向く）
各班より発表（小黒板を表向きに）
指導者からの一言
指導者によるまとめ

再度の話し合いによって
より考えが深まることも！

この学習形態の特徴は...

- ・役割分担により一人ひとりが授業に参加したという充実感を持てる。
- ・話し合いにより多様な意見に出会い、多方面から道徳的価値に迫ることができる。
- ・それぞれの発問についてしっかり考えられるよう、時間配分に注意したい。
- ・自分の考えを発表することに慣れさせたり、一人一人に充実感をもたせたりしたい時に有効な方法です。

